

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	クオリティ・オブ・ライフ久留米支援教室		
○保護者評価実施期間	令和8年2月2日		令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 10人
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日		令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○客観的分析に基づく専門的な支援計画の策定 子どもの特性を深く理解し、ニーズや課題を客観的に分析した上で個別支援計画が作成されている点について、保護者から100%の肯定回答を得ています	標準化された評価（フォーマル）と、日々の観察や聞き取り（インフォーマル）の両面から分析し、定期的に支援内容を見直す体制を徹底しています	アセスメント手法のマニュアル化による支援の質の一層の安定と、AI等を活用してお子さまの微細な成長変化を数値やグラフでフィードバックする仕組みを検討します。
2	○迅速かつ多層的なコミュニケーションと保護者支援 日々の状況共有や相談対応、さらには定期的な保護者会や助言の質において極めて高い評価と満足度を得ています。	連絡アプリやLINEによる即時共有に加え、2か月に1回の保護者会やミニ勉強会を開催し、保護者同士の交流や学びの場を組織的に提供しています	勉強会のオンライン配信による利便性向上や、きょうだい児も参加しやすいライトなイベントの試行により、家族全体を支える体制をさらに拡充します。
3	○児童が安心感を持って楽しみながら通える環境 全ての子どもが「安心感を持って通所している」「楽しみにしている」という回答が得られており、児童の居場所として高い信頼を得ています	仕切りを用いた集中しやすい空間作り（構造化）や、季節・天候に応じた細やかな環境調整を行い、子どもが落ち着いて活動できる場を整えています。	お子さま自身が成長を実感できるポートフォリオの導入や、作品展示などの負担の少ない間接的な地域交流を通じて、自己肯定感と社会とのつながりをさらに強めます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○地域社会や他児との交流機会の不足 地域の子どもや放課後児童クラブ等との交流機会について、「はい」の回答が児発で60%に留まっており、外部との接点が少ないことが課題です	○安全確保と人員体制の制約 外部との合同活動は、安全管理の徹底や人員配置の調整に高い負荷がかかるため、慎重な検討が必要な状況にあります	○段階的・間接的な地域交流の導入 安全面を考慮しつつ、まずは児童が作成した作品の展示など、人員負荷の少ない「間接的な交流」から段階的に進めていくことを検討します。
2	○非常災害訓練の実施状況に関する周知不足 定期的な避難・救出訓練の実施について、「はい」という回答が児発では60%となっており、一部の保護者に活動内容が十分に伝わっていません	○情報発信の形式と定着の乖離 書面等での説明は行っているものの、情報量が多いことや、日々の送迎時の忙しさなどから、具体的な訓練内容などが保護者の記憶に定着しにくい側面があります	○視覚的ツールを用いた訓練・安全情報の可視化 避難訓練の様子をお便りや掲示板、写真等で分かりやすく発信し、相談窓口についても図を用いた資料を作成して周知を徹底します。
3	○きょうだい児への支援体制の具体化 きょうだい児向けのイベントや交流機会の提供について、放デイでは「はい」が65%となっており、家族全体への支援をさらに強化する余地があります。	○保護者の負担増への配慮 きょうだい児支援のイベント開催が、保護者にとって新たな時間的・精神的な負担にならないよう配慮した結果、実施頻度や内容が控えめになっています	○負担感の少ない「家族支援」のモデル構築 保護者が無理なく参加できる形での情報共有や、きょうだい児も安心して関わられる場づくりについて、アンケートの意見（ペアレント・トレーニングへの関心など）を反映させながら具体化します